

チャーレス、ピアド教授に就て

一、略歴 千八百七十四年米國インデアナ州キングスタウンに
生る今年四十九歳なり千八百九十八年デボール大學卒業後氏
は英國に渡りてケンブリッジ及オックスフォードに學び制
度史のオーソリテティーなるメートランド教授やシドニー
ウエツプ夫妻の知遇を得たり。氏は女權論者のパンクハ
スト夫人とも親交を重ねたり英國に滞在すること三ヶ年氏
は獨佛に赴きてまた政治學及び歴史の研究に一兩年を費し
米國に歸れり。米國に於ては氏は更にコーネル大學の研究
科學生となり後コロンビヤ大學に移りて専ら米國制度史の

東京市

研究に従ひ千九百四年の秋ドクトル、オブフィロソフィーの
學位を授與せられたり兩三年の後氏はコロンビヤ大學の助教
授となり後教授に進みて米國憲法發達史及び政治學を講じ傍
らバーナード女子大學及びコロンビヤカレッジに於て米國々
法學を講せり千九百十年頃より氏は更に紐育市政調査會に關
係し其の吏員養成所長となれり。千九百十七年四月米國の參
戰となるやコロンビヤ大學總長バトラー博士は偏狹なる米國
主義を鼓吹したるを以て諸教授等の反感を買ひたり當時ビー
アド教授は總長に反省を求めたるの故を以て爾來總長と合は
ず同年九月末コロンビヤ大學を辭するに到れりピアド教授
の辭職は一般社會の同情を惹起し校友學生等は同教授の復職

を求めたれども同教授は應ぜざりき

コロンビヤ大學辭職と殆んど同時にピールアド教授は紐育市政調査會の専務理事となりかくして今日に到れり目下紐育市政調査會には同教授の薫陶を受けたる四五の政治學博士入會して同教授の事業を輔けつゝありピールアド教授は歐洲大戰終て後半年餘り佛獨に渡りて戦後の改造調査に従事したり其の結果は他日公刊せらるゝなるべし。

二、同博士の學殖

コロンビヤ大學の政治學は先にバーゼス博士やグツドノー博士の先輩に依りて受持たれたるがピールアド教授に到りて始めて科學的體裁を具備することゝなれり同教授は徹底せる科學

東京市

調査主義者にして其の調査方法たるや極めて細密なりこれが爲に米國全國より同教授の講義を聽かんとして集まり來るもの無數にてコロンビヤ大學はピールアド教授に依りて其の政治的名聲を博せるなりき。紐育市政調査會が他の市政研究學者等を措いて同博士を専務理事に薦したるは蓋し同博士の科學研究的學殖に望を囑したるが爲に外ならず同博士は米國第一流の政治學者、史學者なりと推稱せらる

三、ピールアド博士の著書の主なるもの左の如し

一、治安判事の起源 英國史 米國憲法の唯物史觀 米國々法

學政治學研究 米國々民史 ゼファソン主義の經濟的起源

歐洲近世史 米國大審院研究 米國市政研究 其の他

四附記 日支學生にして同博士の教を受けたるもの少からず

同博士は東洋人に對して深厚なる同情と興味とを有す

以

ピアド博士の「政治學研究」は三年前小生邦譯して我が學
界に紹介せり

東京市